

## 日本発ドイツ便り ~ Heidelberg ~

今回は久々にドイツの街をご紹介します。

ドイツ周遊型のツアーでは必ず入っているとんでも過言ではない街、「Heidelberg(ハイデルベルク)」です。

河(ネッカー河)があって、お城があって、古い大学街で、哲学の道があって…。ちょっとどんな街か調べてみると

ドイツ最古の大学が建てられた(1386年!)、今でも大学の街

第2次世界大戦では、爆撃を逃れ(よく爆撃を逃れた唯一の都市!なんて言われます)、戦後はアメリカ占領軍の司令部が置かれた。

「学生王子」という映画の舞台になったため、日本でも知名度の高い街。

この街には、何度か行っていますが、日本+アメリカ人観光客の姿が目立ち、たとえば、ドイツ人観光客の姿はあまりないのです。なんでもドイツ人からみた Heidelberg は「観光客向けの街」とかで、バイエルンにあるノイシュヴァンシュタイン城と同様に、「行ってみたい」とか「憧れの」街ではないようです。内からと外からの評価が大きく異なるようですね。(でもなかなか素敵な古都だと思うんだけど…。)



ちょっとお城の全景の写真が見当たりませんが、なかなか素敵なお城だと思いませんか? 一部は、廃墟のまま残されています。ドイツ・ルネッサンス様式の建物だそうです。

この街が第二次世界大戦で爆撃をうけなかった理由は、よく「美しかったから」とか言われますが、特に重要な軍の設備とか工場とかなかった他の文化都市(たとえばドレスデンなど)も爆撃を受けていることを考えると、どうも納得いかなかったの、あるときに乗ったタクシーの運転手さんに聞いてみました。その運転手さんいわく(なぜかやたら歴史に詳しい人で、ひとしきり聞かされましたが…)「美しかったから、とかではなく、昔のアメリカのエリートはみんなヨーロッパで教育を受けている。もちろんその頃から名門だったハイデルベルク大学で学んだアメリカ人も多かった。軍の

エリートにもたくさんの卒業生がいて、自分の母校のある街を破壊するのは耐えられなかった。」  
というのが、本当の理由のようです。なんか納得。

お城の一部は廃墟になっていますが、これは前世紀の戦争が原因ではなく、17世紀に「フランス人が攻めてきた」ときのものだそうです。(ハイデルベルクにとっては、「先の大戦」は17世紀なんですかね?)



この辺が廃墟になっています。

お城からはハイデルベルクの街全体とネッカー河の素晴らしい景色が楽しめます。



このお城、中も公開されているのですが、残念ながら全部には入ったことないです。  
が、お城にはおもしろいものがあるのです。



これです。何だと思いませんか？

世界で一番大きいワイン樽なんです。1751年に時の領主(?)カール・テオドルという人が作った(作らせた?)もので、直径7メートル、長さ8.5メートル、222,000リットル!木製の樽としては、世界一。なんでも樫の木130本使って作ったそうです。

もちろん、飾りではなく、実際に使っていたものです。ハイデルベルク周辺もワインの産地がたくさんあります。昔は、なんでも税金の代わりにワインで納めてもよかったそうで、そのワインたちをこの樽に入れたそうです。でも、いろんなぶどうの種類や畑で作られたワインをミックスしてしまうので、あんまり良いワインではなかったようですけどね。それをお城で消費していたそうです。なんでも最盛期のお城には常時500~600名くらいの人が入って、飲み食いするわけで、毎日2,000リットルくらいのワインが消費されていたのだそうです。いちいち規模が違うので、想像つきませんが、すごいですねえ…。(毎日500人でなぜ2,000リットルか?明らかに飲みすぎですよ…。なんでもこのカール・テオドルさんは酒豪で有名だったそうですから。)

このお城と大学、それがこの街のハイライトでしょうか。

学生の街らしく、自転車が多く(なんでもドイツで唯一の自転車優先道路があります。)本屋さんや古本屋さんも多いです。あとは、観光名所にもなっている「学生牢」、お城の対岸にある「哲学の道」という散歩コース、ここは「なんでこんなところで哲学なんかできるねん?」というくらい急な坂もあるらしい、という噂は聞いていますが、まだ自分では行った事がありません。(でもここから見る、ネッカー河とお城の全景は絶景だそうですよ。)全部徒歩でいけるくらいのこじんまりした街です。

ツアーだと、大方は、ざっと、市内の観光名所を回って、そのまま次の街へ、と、わずか数時間の滞在ということになるようですが、もし機会があれば、是非一泊してみてください。(計画の際はご相談ください。お勧めのとっても素敵なホテルや、ロケーション・料理ともに大満足のレストランなど、教えます。)





夕方になって、ちょっとライトアップされたお城。  
観光客の多い昼間とはまたちょっと違った印象です。



お城のテラスからみた風景。夕暮れ時、だんだん明かりが灯ってきて…。  
なかなかロマンチックです。

なかなか、どこをとっても「絵になる」街です。フランクフルトから、バスや電車で一時間ちょっと。  
一度出かけてみませんか？